

最後通牒ゲームと個人特性の関連

今市航平

要約

人がある物事に対して判断や選択をする際には自分にもたらされる効用のほかに、周囲の状況や相手の存在、社会的な望ましさ等を考慮して判断や選択をする。しかし、他人の存在に気をとられて自分が損をしてしまうこともある。そのようなときには自身の利益に注視し、判断や選択を行えるとよい。周囲の環境に影響されず自身の利益に注視することを利己的と表現するが、この利己性の差にはどのようなことが影響しているのかについて明らかにしたい。本研究の流れとしてはアンケート調査を用い、最後通牒ゲームを用いて対象者の利己性を測りそれを個人の性格特性、主に対人関係での特性を照らし合わせ比較することで利己性の度合いの原因について探求していく。

JEL 分類番号： D91

キーワード：最後通牒ゲーム、利己性、個人特性

1. 序論

1. 1 はじめに

あるアルバイトの時給が900円だとする。今度新しくアルバイトの人が入り同時に最低賃金が950円に上がるとする。当然そのアルバイトの時給は上がるが新人と同じである。新人と同じで不満に思うことが出てくるのではないだろうか。一方で自分の時給を見れば、900円から950円になっているので満足だという考えもある。この二者の考え方はどちらが正解という訳ではなく人によりそれぞれである。人が物事の判断や選択をする際に自分にもたらされる結果だけではなく周りの状況や他者からの評価、社会的望ましさなどを考慮した選択を行いがちである。人が社会で上手く生きていくうえでは常に理論上、数字上で自己の利益を最大化するような利己的選択を求めることが良い結果をもたらすわけではなくむしろ他者との関係を効用に入れたうえで効用を最大化する場面が少なくない。しかしながら利己的選択を避けていると損するという場面も少なくない、それが本研究で用いている最後通牒ゲームのような場面である。最後通牒ゲームとは二人のプレイヤーで行い、一方に配分権が与えられ、他方には拒否権が与えられる。最初に一定額の金銭が両者に提示され配分者はその額を配分し、二人の取り分を決め相手に提示する。拒否権が与えられたプレイヤーは提示された金額を見て拒否するか受け取るかを選択する。ここで拒否すれば自身の取り分は0円になるのだが自身の取り分が1円でもあれば受け取る方が得しているのであるが、実際に自分の取り分があまりに少ないと相手の分け方に不公平を感じ拒否したくなる。このような場面では利己的な選択が自身の利益を最大化するのだ。日本では利己的という言葉はネガティブにとらえられがちだが、利己的な思考回路を会得することで損する場面を減らすことにもつながる。そこで性格特性と利他性の関係を調査することでどのような人が利己的選択をしやすいか、そこから利己的な選択を意図的にするために意識できることがあればそれを明らかにしていく

1. 2 仮説

本研究の仮説は、利己的な選択を行いがちな人とそうでない人の中には対人関係における性格特性には相関がみられるということである。先行研究はほとんど見られないため、ひとまず相関の有無を仮説とする。

2. 方法

対象者は全年代性別を問わず集め100人を目途にし、8月26日現在で15人の対象者に最後通牒ゲームの模擬体験と性格特性を調べるため仮想的有能感尺度(速水 2006, Hayamizu et al. 2004)と多次元共感性尺度(鈴木・木野 2008)の調査を行った。多次元共感性尺度は被影響性、他者指向的反応、想像性、視点取得、自己指向的反応の5つの小項目からなっている。この二つの尺度を用いたのは、利己性を明らかにするのに相手に対する自分の立ち位置の考え方が重要と考え相手に対して優位に感じるものと同じ視点に立つ

ものを用いた。最後通牒ゲームとは二人のプレイヤーで行う。一方に配分権が与えられ、他方には拒否権が与えられる。最初に一定額の金銭が両者に提示され配分者はその額を配分し、二人の取り分を決め相手に提示する。拒否権が与えられたプレイヤーは提示された金額を見て拒否するか受け取るかを選択する。受け取るを選んだ場合両者は配分者の配分額ずつを受けとる。今回の実験では被験者には拒否権を与え提示額は10万円で、配分の条件は自分：相手で9万円：1万円、8万円：2万円、7万円：3万円、6万円：4万円、5万円：5万円、4万円：6万円、3万円：7万円、2万円：8万円、1万円：9万円、1000円：9万9000円、100円：9万9900円、1円：9万9999円の中で受け取る条件にすべてチェックを入れるように指示した。なお最後通牒ゲームを行うと明記しなかった。格特性の質問項目については下記の通りである。

図1 仮想的有能感尺度 (速水 2006, Hayamizu et al. 2004)

あなたは普段の生活で、以下のように思ったり、感じたりすることがありますか？
 あてはまるものに○を付けてください。

全 く 思 わ な い	あ ま り 思 わ な い	ど ち ら で も な い	と き ど き 思 う	良 く 思 う
1	2	3	4	5

- 自分の周りには気の効かない人が多い [1・2・3・4・5]
- 他の人の仕事を見ていると、手際が悪いと感じる [1・2・3・4・5]
- 話し合いの場で、無意味な発言をする人が多い [1・2・3・4・5]
- 他の人に対して、なぜこんな簡単なことがわからないのだろうと感じる [1・2・3・4・5]
- 自分の代わりに大切な役目を任せられるような有能な人は、私の周りには少ない [1・2・3・4・5]
- 他の人を見ていて「ダメな人だ」と思うことが多い [1・2・3・4・5]
- 私の意見を聞き入れてもらえなかったとき、相手の理解力が足りないと感じる [1・2・3・4・5]
- 今の日本を動かしている人の多くは、たいした人間ではない [1・2・3・4・5]
- 世の中には努力しなくても偉くなる人が少なくない [1・2・3・4・5]
- 世の中には、常識のない人が多すぎる [1・2・3・4・5]

図2 多次元共感性尺度 (鈴木・木野 2008)

当 て は ま ら な い	あ ま り あ て は ま ら な い	ど ち ら で も な い	や や あ て は ま る	よ く あ て は ま る
1	2	3	4	5

周りの人がそうだといえば、自分もそうだと思えてくる	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
自分の信念や意見は、友人の意見によって左右されることはない	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
物事を、周りの影響を受けずに自分一人で決めることが苦手だ	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
自分の感情は周りの人に影響を受けやすい	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
他人の感情に流されてしまうことはない	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
悲しんでいる人を見ると、慰めてあげたくなる	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
悩んでいる友達がいても、その悩みを分かち合うことができない	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
他人が失敗しても同情することはない	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
人が頑張っているのを見たり聞いたりすると、自分には関係なくても応援したくなる	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
周りに困っている人がいると、その人の問題が早く解決するといいなあと思う	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
面白い物語や小説を読んだ際には、話の中の出来事がもしも自分に起きたらと想像する	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
小説の中の出来事が、自分のように感じるところはない	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
空想することが好きだ	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
自分に起こることについて、繰り返し、夢見たり想像したりする	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
感動的な映画の後は、その気分いつまでも浸ってしまう	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
自分と違う考えの人と話しているとき、その人がどうしてそのように考えているのかをわかろうとする	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
人と対立しても相手の立場に立つ努力をする	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
人の話を聞くとときは、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞く	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]
常に相手の立場に立って相手を理解するようにしている	[1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5]

相手を批判するときは、相手の立場を考慮することができない	〔1・2・3・4・5〕
他人の失敗する姿をみると、自分はそうなりたくないと思う	〔1・2・3・4・5〕
苦しい立場に追い込まれた人も見ると、それが自分の身に起こった ことでなくてよかったと心の中で思う	〔1・2・3・4・5〕
他人の成功を見聞きしているうちに焦りを感じる人が多い	〔1・2・3・4・5〕
他人の成功を素直に喜べないことがある	〔1・2・3・4・5〕

3. 分析・結果

最後通牒ゲームの結果を従属変数にし、仮想的有能感、多次元共感性尺度を小項目ごとの被影響性、他者指向的反応、想像性、視点取得、自己指向的反応の項目ごとを独立変数にとって回帰分析を行った。それぞれの回帰分析の係数は、

仮想的有能感	0.5149	(切片 65.3011)
被影響性	-1.373	(切片 98.901)
他者指向的反応	-0.3434	(切片 85.0195)
想像性	0.1932	(切片 75.2112)
視点取得	0.8215	(切片 63.1411)
自己指向的反応	-1.996	(切片 104.534)

であった。最後通牒ゲームを用いた利己的選択と正の相関を持った特性は仮想的有能感と想像性、視点取得であり、負の相関を持った特性は被影響性と他者指向的反応、自己指向的反応となった。

仮説に関しては、選択の利己性と対人関係に関する性格特性の間には一定の相関は見られたといえるであろう。

4. 考察

正の相関に関しては仮想的有能感と視点取得が特に相関がみられた。仮想的有能感は自己が実際に有能であるかどうかに関係なく周りと比較して有能に感じるかというものである。視点取得の質問項目は相手の立場に立って物事を考えられるかどうかというものである。負の相関を大きく示したのは自己指向的反応、被影響性であった。自己指向的反応は、他者に起こったことでそれが自分でなくてよかったと思ったり、焦りを覚えるようなものである。被影響性は自分がどれだけ他者や周りに流されやすいかである。これらから考えられることとしては、俯瞰して物事を見ることができることが選択の利己性に有利に

働くと言えそうである。自分と他者を比較したうえで自分の方が有能であると感じたり、自分のことだけに必死にならず、他者視点で物事を考えることは俯瞰の能力と言え、被影響性や自己指向的反応は物事を俯瞰で見る能力とは言い難く、むしろ遠い位置に存在している。